

まち活② つうしん

ねりま5づくりセンター

取材/2009年10月24日

—ご近所で子どもたちの楽しそうな遊び声が聴こえてくると、平和な気持ちになります。プレーパークは、ただ子どもたちの遊びの場をつくるだけではありません。プレーパークのことを知ると子育ての楽しさや、まちづくりのこと、人間関係の築き方まで見えてくる!? 活動5年目を迎えた「石神井・冒険遊びの会」が、もっと地域に根ざした活動を目指して新しい一歩を踏み出す。ドキドキ・初めてのシンポジウムです。

一歩踏み出して、もっとつながろう。

シンポジウムに定例のプレーパークも同日開催と、会としては大冒険の一日です。百戦錬磨のスタッフさんの働きで、準備は万端。子どもが遊べるゾーンも完備。細やかな気配りがみられます。参加者は、赤ちゃんを連れた若い夫婦、子連れのお母さん、育児出版関係者、韓国の学生さん、女子大生、行政関係者…と多彩な顔ぶれ。スタート

は10人程でしたが、終わりには20人近くになり、会場内にはぎやかに。

話してみたら、見えてきた!

現場での活動は、言葉では伝えにくいものです。パネリストのみなさんは、資料や写真を駆使し、それぞれの活動、地域での遊び場づくりについて語ります。「石神井冒険遊びの会」からの



パネリストのみなさん



中川奈緒美氏
みんな KilaKila
子育てネット代表



古谷忠氏
新宿区子ども家庭部
子どもサービス課



兵頭正之氏
あそボラネット
かみしゃく事務局



木村英幸氏
石神井冒険遊びの会
プレーリーダー



西川正氏
市民活動情報センター
ハンズオン！埼玉
常務理事

パネリスト・「きむきむ」こと木村さんの話は、障害をもつ児童とのふれあいを通して感じた、人との関わり方について、そして『遊び』や『遊び場』への考えに展開していきました。こんなにも様々な考えを団体さんがもっていることは、普段の活動のなかだけでは、参加者と共有しきれないかもしれません。シンポジウムをきっかけに、それぞれの思いや考えを話してみると、共有できること、見えてくるものがありました。

『かぶりもの』をかぶろう

「石神井・冒険遊びの会」の呼びかけで集まったパネリストのひとり、「市民活動情報センター ハンズオン！埼玉」西川さんは、チョンマゲやおイモの形をした『かぶりもの』を誰にでもかぶせてしまうツワモノ。

『かぶりもの』をかぶってしまったら、初めは真面目な顔をしていても、つい

つい『素の顔』が現れてくるようです。コミュニケーションをとるのが難しいと思われがちな、行政の人や地域住民とも、『素の顔』が見える関係なら、もっと共通の言葉で話し合えるはず。では、「どうしたら、『かぶりもの』をかぶってもらえる関係になれるか」と、主催スタッフから核心をつく質問が出ます。西川さんの答えは、「とにかく足





▲秋色の石神井公園では楽しそうな声が

しげく通い、顔馴染みになることが大事」とのこと。どんな相手とも、ごく当たり前の人付き合いから始め、理解し合えれば、お互いにとって心強い存在になれるのです。

その後のプレーパークにて

シンポジウムが無事終わり、希望者はプレーパークを開催している石神井公園へ。石神井公園には、子どもたち・

大人たちが入り混じり、ごはんを食べたり遊んだり。たくさんの方の生き生きとした顔を見ていると、この活動がいかに地域にとって貴重なものかを実感します。いつもの現場・自分達の場所に戻ってきて、スタッフさんも安心した笑顔に。

シンポジウムで新たな方向性を見出し、一步を踏み出した「石神井・冒険遊びの会」の今後の活動が楽しみです。



▶区を越えてつながる、プレーパークの活動やネットワークの提案もありました。

団体さん、今日を振り返る。 活動メンバー風間さんのお話

シンポジウムの開催は初めてであり、準備段階からハラハラドキドキの連続でした。しかし当日、各分野でご活躍いただいているパネリストのお話を伺い、今後の活動の指針を得られたことは、大きな成果がありました。活動の基本は人間関係を築くことであり、先方と信頼関係の構築が、連携がうまくいく鍵であることが理解できました。さらに、パネリストやシンポジウムに参加して下さった方々が、同じような思いや志、あるいは悩みがあることが見受けられ、励みとなりました。今後は、様々なグループと連携しながら、活動してゆきたいと思います。



進行を助める(右から)山口さん・風間さん・須藤さん

活動団体基本データ

設立

2004年4月

活動テーマ

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、地域の多くの人たちと協力しあい、子どもたちが自発的に遊び、生き生きと育つための冒険遊び場をつくる。また、障害・国籍・世代を超えた交流の場を目指す。

活動実績

- ・毎年、年間21回都立石神井公園にてプレーパークを開催(2006-)
- ・「練馬区社会福祉協議会」より助成(2006-2008)
- ・「福祉医療機構」より助成(2007)
- ・子どもの外遊び環境に関するアンケート調査実施／「練馬まちづくりセンター」より助成(2008)

ホームページ

<http://syakujiipp.web.fc2.com/>

団体連絡先

syakujiipp@gmail.com

団体拠点案内



活動場所

都立石神井公園内
おべんと広場

練馬まちづくりセンター

発行日 2010年3月8日

取材／編集 練馬まちづくりセンター

デザイン 濱祐斗〔BEACH〕

発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター

練馬区富士台2-9-9 練馬センタービル3階

Tel. 03-3892-5481 Fax. 03-3993-8070

E-mail machi@nenmachu.jp Web http://nenmachu.jp

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を実施するとともに、区民・事業者・行政から独立し、連携を図る、中立的な立場から協働型まちづくり事業を実施する組織です。

これからの展望

毎日開いている

プレーパークを目指して

実施したアンケートによると、子育て家庭のプレーパークへの期待は大きく、プレーパークの常設化・プレーリーダーの常駐が期待されています。活動を広げることは、会の更なる発展や地域貢献になりますが、その分負担も大きくなります。様々なジャンルのグループや関係団体と手を取り、協力し合って毎日開いているプレーパークを目指します！

今後こんなグループとつながりたい！

行政／障害者支援・発達支援をしているグループ／区内学校関係／子育て支援グループ

活動メンバー紹介

木村 秀幸 さん



慣れないパネリストという役に、終始緊張と戸惑いを隠しきれない様子。しかし、持ち前の人柄でパネリスト・参加者のハートをしっかりと掴みました！

須藤 舞弓 さん



初のシンポジウムで、堂々と司会・進行をこなした須藤さん。パネリストの話に丁寧なコメントを入れて、少し難しい内容も理解へとつながりました。

他にもたくさんの方がいらっしゃいます！是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンターは“まちづくり活動助成事業”で、石神井・冒険遊びの会を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内・2年目50万円以内

身近な場所で生き物を呼び空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内(年中受付しています)

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成